

# サラリーマンから転身した だるま職人の気概

11年前、40歳を迎える前に一念発起し、会社を退職して職人の世界に飛びこんだ、「だるま工房 吉んと」代表の小野里治さん。

200年以上続く高崎だるまの伝統を継承しつつ、創作だるまの製作に挑む、小野里さんの工房を訪ねた。

フリモARで動画が見られます

鮮やかな手さばきでだるまの顔を描いていく



フリモARアプリをダウンロード

App Storeからダウンロード Google Play で手に入れよう

で「フリモAR」を検索

※AppleおよびAppleロゴは米国その他で登録されたApple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。  
※Google PlayおよびGoogle PlayロゴはGoogle Inc.の商標です。



**一生の仕事を求めて  
だるま職人へ転向**

幸福や繁栄を意味する吉祥文様の鶴と亀が顔に描かれ、群馬県のふるさと伝統工芸品に指定されている高崎だるま。別名、縁起だるまや福だるまとも呼ばれ、全国にその名を知られている。

2016年、太田市で初めて高崎だるまの工房を興したのが、小野里治さんである。37歳だった野里治さんは、手先も器用だったという小野里さん。飲食やブライダル関係のサービス業で順調にキャリアを積む一方、一生かけて成し遂げた

いと思えるような目標を模索していた。

そんな頃、地元の新聞で偶然目にしたのが、群馬県達磨製造協同組合で独立を前提とする新規参入者を募集しているとの記事だ。学生時代から歴史や日本のルツに興味があり、「ものづくりと伝統文化を追求できるだるま職人という仕事に、運命を感じました」と話す。

すでに結婚し、幼い子どもを二人抱えるなか、生活への不安もあつた。しかし、笑顔で了承してくれた妻の支えに励まされる。2009年、小野里さんは会社を退職し、老舗のだるま製造会社に就職。車で片道1時間以上かけ、高崎市まで通った。



製造途中のだるまが所狭しと並ぶ、小野里さんの工房

だるま工房 吉んと

太田市新田木崎町1093-3  
0276-56-3344

**幸運を願う縁起物に  
職人の技と真心を込める**

ひと言で高崎だるまと言っても、その質感や色、顔の表情は、職人によって全く違う。2羽の鶴を意味する眉毛や、亀の形を模した小鼻からひげ、顔の脇に描かれた商売繁盛、家内安全などの願い事の文字まで、一つひとつに職人の

から仕入れただるまの原型、張り子の表面を整えるところから始まる。1体1体の表面を紙やすりで削り、滑らかにしてから下地剤でコーティング。さらに、だるま用の赤い塗料を塗り、顔の脇に商売繁盛や家内安全などの願い事を入れる。何百個、何千個も同じ作業の繰り返しだ。その単調とも言える仕事に耐えられず、途中で挫折する人も多いという。

厳しい修業時代を振り返り、「コツコツと丁寧な仕事に一人で取り組むのが、私の性分にあっていたのだと思います」と話す。2016年、7年間の修業を終え、小野里さんは独立。だるまを「吉んと」と作りたいという決意と、「縁起の良い吉」をかけ、屋号は「だるま工房 吉んと」に決めた。不惑を過ぎ、1日中だるまと向き合う、新たな日々が始まったのである。

だるま職人の仕事は、専門業者から仕入れただるまの原型、張り子の表面を整えるところから始まる。1体1体の表面を紙やすりで削り、滑らかにしてから下地剤でコーティング。さらに、だるま用の赤い塗料を塗り、顔の脇に商売繁盛や家内安全などの願い事を入れる。何百個、何千個も同じ作業の繰り返しだ。その単調とも言える仕事に耐えられず、途中で挫折する人も多いという。

厳しい修業時代を振り返り、「コツコツと丁寧な仕事に一人で取り組むのが、私の性分にあっていたのだと思います」と話す。

2016年、7年間の修業を終え、小野里さんは独立。だるまを「吉んと」と作りたいという決意と、「縁起の良い吉」をかけ、屋号は「だるま工房 吉んと」に決めた。不惑を過ぎ、1日中だるまと向き合う、新たな日々が始まったのである。

ひと言で高崎だるまと言っても、その質感や色、顔の表情は、職人によって全く違う。2羽の鶴を意味する眉毛や、亀の形を模した小鼻からひげ、顔の脇に描かれた商売繁盛、家内安全などの願い事の文字まで、一つひとつに職人の

個性が表れる。

小野里さんが作るだるまは、表面がつるりとしていて肌触りもいい。色を塗る前のやすりかけを人一倍丁寧に行っているからだ。「この作業を怠ると、全ての作業が台無しになってしまいます」と、仕事と向き合う真摯な思いを話す。手に取ってくれる人が願いをかける縁起物だけに、決して手抜けないと、信条を明かしてくれた。また、下地剤を濃いめに塗れただけで、赤色の鮮やかさが際立つ。このひと手間も、職人としての強いこだわりだ。

赤色の塗料が乾いたら、顔の輪郭を色付けする。一般的なだるまの顔はほんのりとピンク色をしているが、小野里さんはさらに赤い塗料を足して、やや赤味がかったピンク色の顔に仕上げるのだ。という。「こうすると、だるまの血色が良くなり、めでたさが増すような気がします」とほほ笑む。目周りをオレンジ色で薄化粧すれば、いよいよ顔の絵付けだ。

墨を含ませ、一気に眉とひげを書き上げていく小野里さんの筆書きには無駄がない。顔の輪郭から少しはみ出るよう大きく眉とひげを描き、繊細な線を重ねると、瞬く間にキリリとした表情が現れた。高崎のだるま市に出店した際、昨年買った私のだるまの

書き上げていく小野里さんの筆書きには無駄がない。顔の輪郭から少しはみ出るよう大きく眉とひげを描き、繊細な線を重ねると、瞬く間にキリリとした表情が現れた。高崎のだるま市に出店した際、昨年買った私のだるまの

幸運を呼び込んでいかがだろ

新規コロナウイルスが流行し、世界中に暗いムードが漂った2020年。新しい年の幕開けは、職人の思いが詰まった縁起物で、幸運を呼び込んでいかがだろ